



医療・介護・福祉・教育の現場へ
mt life art project

mtアートが育む、豊かなこころ

「mt life art project」
取材ムービーはこちら



www.masking-tape.jp/mt-lifeart



カモ井加工紙株式会社
〒710-8611 岡山県倉敷市片島町236
TEL:086-465-5800 FAX:086-465-5860
E-mail:contact@masking-tape.jp



不自由の中の工夫
中 学 校

医療・介護・福祉・教育の現場へ

mt life art project

mtアートが育む、豊かなこころ



人と医療。人と介護。人と教育。
人と社会の間にある問題を
マスキングテープ×アートで応援する
mt life art projectがスタートします。

マスキングテープがあれば、年齢や環境、
能力や個性を超えて、アートをもっと
手軽に楽しむことができます。
五感を刺激することで、心と体を癒し、
社会をより良い方向へ導くと信じています。

今回は、医療・介護・福祉・教育
アートの現場で、実際にmtが
使われている様子取材しました。



心の処方箋
病院・介護施設

創作意欲を支える
障害者施設



筆にはないニュアンス
アーティスト



指先のトレーニング
幼稚園



不自由の中の工夫が
 試行錯誤の
 時間を生み出す。



国立大学法人静岡大学 教育学部附属静岡中学校
 美術科教諭 萩原 彰彦先生

マスキングテープで名画の模写を行う中学2年生の美術の授業

失敗してもいい。苦手意識をなくす。

mtでの模写の良いところは、とことん追求できる余地もありながら、mtを選ぶ時に自分の思いが込められる点です。生徒たちはたくさんのmtでやる気になったようで、全く手が動かない子はいませんでした。絵の具だと失敗ができないけれど、マスキングテープだとはがしてやり直しができるから、挑戦もしやすい。とりあえず貼って試してみる、アートが苦手な子にとっても良い画材だと思います。まずドサッと画集を用意して、描きたい絵を自由に選びました。意外なことに印象派の点描だけでなく、若冲などの日本画も多かったです。mtが和紙で作られていると知り、日本の絵を意識したのかもしれない。これをmtでやったら面白いかも、とイメージが膨らんでいました。A3サイズの絵を8~9時間くらいかけて仕上げていきました。1人当たりの材料費は500円くらいでした。

自分なりの技法を見つける。

模写だけど再現ではなく、絵の魅力を自分で味わってアレンジする。ここが魅力だと思います。フェルメールの背景をピンクにしたり、着物の柄を現代風にしたり、自由な発想で名画をアレンジしていました。ルノアールの魅力である栗



色の髪を、mtで表現するにはどうすればよいか考え、薔薇の柄のmtを使用し、赤すぎない赤を作る。ほっぺたの透明感を表すほんのり赤い色は、ちょうどいい色がなければ、重ねて貼ってみると上手く馴染むことを発見したり。作って離れて見てをひたすら繰り返す。鑑賞もすぐするし、表現もする。色や大きさも決まっていたり、不自由だからこそ、工夫をする。うまくいかないから、重ねてみようかな? 縦に裂いてみようかな? デザインカッターで切り刻んではがしてみようかな?と工夫して自分なりの技法を見つける。これこそ美術の授業の理想のあり方です。

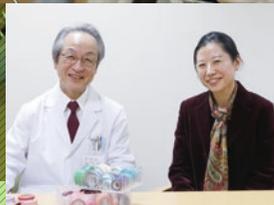
日常の中のちょっとした美。

美術室にテープを置いてみると、美術部の生徒たちがあちこちにmtアートを作り始めました。窓ガラスにハロウィンやクリスマスツリーをらくがきしてもはがせません。お天気がいいと窓に貼った絵柄がスタンドグラスみたいに光るんで

す。「先生、この影きれいだね」と、mtを使って日常の中のちょっとした美を見つけて幸せを感じたり、誰かを喜ばせたいという想いで創作をしていました。中学で義務教育の美術は終わります。課題や評価があって、嫌々授業を受けている子もいるかもしれません。義務教育が終わると、美術はやらされるものではなく、ここから本当の美術がはじまる気がします。日常をちょっと楽しくしたり、自分が好きで楽しくてものを作る、アートが将来彼らの人生を豊かにするものであってほしい、マスキングテープのように身近なものでずっと親しんでほしいと願っています。



誰かを想い、誰かを癒す。
 ホスピタルアートは
 心の処方箋。



吉野川病院病院長、敬愛の家施設長
 医学博士 永廣 信治先生
 徳島大学大学院社会産業理工学研究部総合科学部
 准教授 博士 田中 佳先生

老健施設でのmtを使用したレクリエーションと病院でのホスピタルアートの制作



素人でも自由につくることができた。

普段は社会と美術の関係を研究していますが、ホスピタルアートは今まさに社会の関心が高まっている分野だと思います。あるとき徳島大学病院から階段の利用促進について相談を受け、階段を行きたい場所にするためにアートを採り入れてみようと考えました。階段の壁には凸凹があり、額を飾ることもむずかしかったので、マスキングテープを使うことになりました。私ひとりでは出来ないで、学生の中から有志を募り、一緒にデザインを考えました。連続性があり昇り降りしなくなること、病院なので草花や動物など自然のものを採り入れて季節感を出すこと。アート制作に関しては全くの素人集団でしたが、学生たちはどんどん自由に形を作っていました。(田中先生)

作るひと、見るひと癒すアート。

私たちが作るのは外来の患者さんが落ち着く方方で、その間に通る人は患者さんより職員の方が多く、通りかかる度にまた増えたね、よく出来ているねとたくさん声をかけてもらいました。学生も人の役に立つことが嬉しかったです。その後、徳島市民病院では職員

の皆さんと一緒に壁画を作り上げました。非常に緊張感の高いお仕事をされているので、日常を忘れ、黙々と制作することでリフレッシュされたようです。イギリスの研究結果でケアする人が幸せになると、患者さんとの関係も良くなるというデータが出ているそうです。そういう意味でもmtを使ったアート制作ならきっと好循環が生まれると感じています。患者さんと直接ふれあう機会というのは少なかったのですが、普段車椅子のお母さんがこの階段アートを見るために車椅子を降りて歩かれたというお手紙をいただいたり、嬉しい経験もいくつかありました。(田中先生)

脳のリハビリテーションに活かしたい。

私は脳神経外科医で、脳の障害のある方たちが美術に取り組み、非常に能力を発揮するという体験をしてきました。脳の働く場所が違うんですね。おそらく高齢になっても、記憶ばかりのリハビリでは限界があり、美術が脳の機能の向上に繋がるのではないかといい想いがずっとありました。マスキングテープを使って出来ないだろうかと感じ、実際やってみると、障害があり、普段はレクリエーションに参加されない方が、マスキングテープを使った作業になると立ち上がって凄い作品を作りはじめました。脳は非常に機能が複雑で、美的感覚は別の場所にある。そこが日頃は眠っていて、触発してやると他の所まで良い機能に持っていきけるのではないかと、mtを使ってそういった効果を実証できればいいですね。その可能性をきっと持っていると思います。(永廣先生)





曖昧の中の美しさがある。
筆にはないニュアンス、

マスキングテープアーティスト
船原 七紗さん

油絵のようにマスキングテープを使って名画を独自の作品へとアレンジする作家

待つ時間がいらず、早く作れる。

元々マスキングテープが好きで集めていたのですが、最初は簡単なイラストを描いたり、手帳に貼っていただけでした。ある時、美大の課題で「顔」を描くというテーマがあって、油絵をあまり描きたくない時期だったので、マスキングテープでモナリザを作ってみました。すると友人や教授からも好評で、自分でも手応えを感じ、TVやWEBメディアから取材を受けるようになりました。油絵は乾くまでに時間がかかり、どのくらいの速度で描くかで表現が変わります。マスキングテープは紙を用意すればどんどん作れて、待つ時間が必要ないところがいいですね。色を重ねる表現は油絵と似たところもあります。カッターは使わず、すべて手でちぎっています。現在、持っているマスキングテープは1,000個以上です。

筆運び、微かな表情を再現できる。

ただ貼っていくのではなく、元の絵が持っている筆運びや流れを意識したかったので、重ねて盛るように貼ったり、絵の流れのとおりテープを貼ったり、油絵の技法を意識しています。顔の部分にかなり多くの色が混ざり合っていたので、テープを貼り重ねて雰囲気が近くなるようにしたり、元の絵がちょっと



おどろおどろしい場合はその雰囲気を残しつつ、マスキングテープなのでちょっと鮮やかさを加えたり、よく見ると可愛いテープが混ざっていたり、そういう遊びの部分は忘れずに作っています。「最後の晚餐」は人物よりも手の表現がむずかしかったです。ものを取ろうとしている手だったり、キリストがの中に裏切り者がいると言った瞬間、びっくりして挙げた手だったり、そういう心情を表す手をマスキングテープで表現するには時間がかかりました。

新しいアートの楽しみが生まれる。

mtの柄、組合せを意識しながら、この作品は日本画だから和風の柄を、明るい表現にしたいから花柄や水玉をつ

くってみよう、と新しい作品にするのが楽しいです。フェルメールの背景にも花を使ったので、人物にも影にも花柄を入れ、統一感を出しました。元の絵は暗く大人っぽく表現されていますが、題材が可愛い女の子なので、積極的に可愛いモチーフを使うようにしました。若冲の雪の上に鳥が立っている絵には、雪のモチーフを使ったり、日本画にはおにぎりやお寿司の絵柄を使ったり。作品との距離で見え方が変わるので、近くで見たときに「お寿司だ!」と見つけてくださると嬉しいです。普段絵を見ない方も、柄とか色の組合せが可愛いな、カラフルだな、と作品を見ていただくきっかけになれば良いなと思っています。

彼らの創作意欲が
続くように
すぐそばで支えるもの。



一般社団法人アートスペースからふる理事長
妹尾 恵依子さん

障害のある方のアートのレンタルや商品開発を目指して運営するB型就労施設

すぐ使えるスピード感がマッチする。

元々養護学校の講師や個人でアート教室を運営している中で、障害のある方の生み出すアートに心惹かれ、彼らのアートにふれていたいと感じたのが、この場所を作ったきっかけです。私たちの仕事は創作意欲が落ちないようにサポートすること。そのための画材は手軽さやスピード感が必要です。うちでは絵の具は筆をとってすぐに使えるように、すべて瓶に詰めています。チューブから適量を出して、水で溶いて使う、という行為は彼らにはむずかしいのです。マスキングテープなら、簡単にすぐに使えて、手も汚れません。私たちにあってmtはなくてはならない素材です。絵を飾る時にも裏面につけても作品がやぶれないし、とても重宝しています。

簡単だから、飽きずに続けられる。

彼らの創作を「無重力の作品づくり」と呼んでいます。上下関係なくぐるっと回してしまったり、こだわって作り上げた画面の上に、どんどん絵を重ねたり。作り方は直感的で、普通なら白い画用紙を前に躊躇するところを、すぐそばにある道具を使って、自分の中のものをすごい力で表していきます。そこが彼らの絵の魅力です。これまで付箋を使って



作品づくりをしていた西尾さんに、はがれたり作品の劣化や保管が大変なので、mtを提案してみました。すると花柄やガーリーなファッションが大好きな彼女に響いたようで、目をはなすと一面にどんどん貼っています。器用な方ではありますが、細かい作業はむずかしく、手間がかかる操作は飽きやすいのですが、彼女らしい色柄を選んで創作が続いています。市民美術展で賞をとった作品にも使われています。

ほめられる。自信につながる。

作ることに興味がある人ばかりではありません。アートが好きで、そうでない人は半々くらいです。障害のない方と同じようにすることを強要されたり、急かされたり、自信をなくしていた方が、ここに来るようになって、自分が思いのままに創作することを褒められ、自信をもって日常生活を送れるようになって

います。自傷や他害といった場面うちでは見られません。目標は彼らがアートをしごとにして羽ばたいていくこと。日々の生活が豊かで落ち着いたものであることなのです。マスキングテープは貼ったりはがしたりできて、たくさんの色柄があって多様性にも対応しています。これからもアーティストたちの創作意欲を支える存在であってほしいです。





小さな子どもたちが
夢中で作るうちに
自然と指先の
トレーニングになっている。



学校法人 国東学園
くにとう幼稚園

異年齢の園児たちがまざりあって取り組む、マスキングテープで作る大きなぬりえ

そばにあると自由に作りはじめる。

マスキングテープは文房具のひとつとして使っています。自由遊びの時間にテーブルに置いてみると、子どもたちは自由に使い始めました。コップをおしゃれに飾ったり、クリスマスカードを作ったり、私が見ていなくても、子どもたちが自分で管理も出来るし、ちぎって貼って想像しながら、モールなどの材料と組み合わせて自由に使って作っていましたね。子どもたち同士でお手紙交換をしている中で、マスキングテープを使っている子もいるようです。私たち自身も、ファイルの飾りなどに使いますし、手帳にも使ったり、制作物を飾るときもぴーっと貼るだけ、ちょっとの手間ですごく可愛くなるので、集めています。

だんだんちぎれるようになってくる。

今日は大きなぬりえをたくさんのmtを使って、すごく楽しそうにしていましたね。年少さんはまだちぎれない子もいましたが、見ていると細かい作業が苦手だと思ってた子が、やり進めるにつれて使いこなせていたので、マスキングテープで遊びながら、トレーニングできると思いました。うまくちぎれなくても、子どもたちなりに考えた作品になっていて、年少さんでも使えるんだなという発見がありました。よく見ているとお花だけでなく、太陽や蜘蛛を作ったり、リボンを立体的に作っていました。子どもたち自身が想像したり発想したことを工夫して取り組んでいるのが伝わってきました。大きな絵本をみんなで物語を考え



ながら作るのもいいですね。ハサミを使わなくていいので、異年齢交流の授業で使うのによい教材だと感じました。

個性を引き出す。自信につながる。

課題を考えるとき、全部同じ作品ではなく、個性が出るようにと考えています。その子が秘めているものは引き出してみないと分からないし、表現する手段として工作があるのかなと思います。マスキングテープを使うことで、こちらが考えたものではなく、子ども自身が考えて違う方向に展開していけたらすごいなと思います。私は子どもたちが出来る

だけ色や素材を選ぶよう、準備のときに心がけています。そして、どの素材を選んでもいいねって褒めるようにしています。あとは出来た作品や作っている過程で、隣の友達が周りの子とは違う面白い選択をした時にちょっと取り上げて「みんな見て！この子はこれを選んでるよ、こんな風になっているよ」と紹介します。私が想像していたのとは違うやり方を出してきてくれたら、私も教えていて凄く楽しいし、そんな瞬間を大事にするように心がけています。工作をきっかけにお喋りや笑顔が増えれば、きっと自信にも繋がると思います。

